

**TNC**  
**通信**

2021  
2月号

## 【丑(う)年 アラカルト】

「牛が水を飲まねば頭は押さえられぬ」—中国の俗諺。牛が水を飲む気がなければ、抑えつけて飲ますことはできない。人も好きでないことをやらせても効果が上がらない、無理強いはいけないという戒め。

# 恒例の『新春の集い』は中止になります！

当会の主要行事「新春の集い」は毎年の春節に合わせ、会員、留学生、華人及び来賓を招き開催しています。昨年2月は富ヶ丘公民館で午前「餃子づくり」を行い、昼食時に餃子他をいただきながら交流交換会として開催しました。

残念ながらご承知の通り、新型コロナウイルスによる感染者は1年を過ぎましたが終息をみておりません。宮城県も首都圏程ではないものの、連日の報道通りに、予断を許しません。また新たな変異種も発生しております。ワクチンの接種も未定です。これらを勘案し、大変残念ですが本年の「新春の集い」は中止とさせていただきます。富谷市日中会員が『かからない！ かけない！』日々を送ってまいりましょう。

## 県協会・青年委員会で 「中国の洒落言葉を学ぼう」を開催！

前回好評でした「中国の洒落言葉を学ぼう」を今回も日本語の解説で開催いたします。お気軽に楽しんで下さい。

〈日時〉2月28日(日)10～11時半

〈会場〉国際センター1F研修室

〈会費〉1000円 定員15人

〈申込〉県協会〈274-3811〉25日迄

※但し、宮城県も緊急事態宣言が発せられましたら中止となります。

## 『太平天国—皇帝なき中国の挫折』 菊池秀明著 (岩波新書、946円)



太平天国 菊池秀明

陳舜臣の小説で知られますが、本書は大学講義をベースにした学術書。しかし詳細だが分かりやすい解説書だ。1840年アヘン戦争から10年、上帝会は貧民をキリスト教的シャーマニズムで結集し、政治結社化し“約束の地”目指し、14年間の史上最大の残虐の内戦を起こす。何を求め、何故挫折したのか？ 筆者は様々な分析を通して、現代中国をも鋭く見つめる。(M)

## 私の友好記憶

### 「植林のパートナー」 本郷 祐子

宮城県日中友好協会と吉林省林業局との植林事業15年間のパートナーは隋希英さんでした。当初は15年の長きにわたっての“老朋友”になるうとは、予想もしませんでした。2017年7月をもって事業に終止符を打ち3年を過ぎたのに、春が来ると新しい植林が展開されていくような気分になり、そして長春駅で「ホンゴーさん」と全身を笑顔にして迎えに来てくれそうな気がするのです。お互い中国語も日本語も話せずに心が通じ合うというだけで15年も続いたものです。中国語を勉強し直して自由に会話がかかわせたならもっと楽しく交流ができ、多少の文化の違いはあるものの“明白了”と相互理解もより深まったのではないかと思います。

2004年8月に(財)国際緑化推進センターの助成で「カウンターパート受け入れ研修」が企画され隋さん宮城を訪問。林業関係の見学(写真①左から3人目が隋さん)や蔵王、鳴子、七夕観光もご一緒しました。温泉宿でお風呂を体験した(写真②右が私)のも忘れられない思い出です。

また隋さんは美声の持ち主で、どんな大舞台でも物おじせず、ある時は中国全土から集った200人を超える聴衆を前に、はっきりした日本語で『昴 スバル』を熱唱してくれました。また私が写真の趣味と知ると、マイナス30度となる長春の寒風のなか窓ガラスにできた結晶を撮影して送ってくれたりしました。何にでも挑戦し、こなしてしまう素晴らしい人です。こんな隋さんはいつまでも“忘れ得ぬ人”です。



## 募集

『みんなで作ろう<TNC通信>』 -- §第250号・結成30周年へ§

- ① 「私の友好記憶」原稿は400～800字。思い出の写真だけでも可。
  - ② 自由投稿「写真」「エッセー・詩歌・俳句・川柳」等
  - ③ 読者の声「私の思う日中関係」「日中友好活動の在り方」「中国に学ぶ」等
  - ④ その他
- <送り先> 水戸理事長または横山事務局長宛